

# ポー・カレン語の事象キャンセル

加藤 昌彦

## 1. はじめに

ポー・カレン語(Pwo Karen)は、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派カレン語群に属する言語である。ポー・カレン語には西部ポー・カレン語(Western Pwo Karen)、東部ポー・カレン語(Eastern Pwo Karen)、トークリーバウン・ポー・カレン語(Htoklibang Pwo Karen)、北部ポー・カレン語(Northern Pwo Karen)、といった互いに意思疎通の困難な方言群がある(Kato 2019)。本稿で扱うパアン方言(Hpa-an dialect)は、ミャンマー連邦共和国カレン州(Karen State)の州都であるパアン(Hpa-an)の周辺で話されている方言で、東部ポー・カレン語に属する。以降、このパアン方言を単にポー・カレン語と呼ぶ。

カレン系諸言語は、SOV 型言語がほとんどを占めるチベット・ビルマ語派に属しながら、SVO 型の特徴を持つ。ポー・カレン語もその例に漏れない。ここでポー・カレン語の文法的特徴をざっと見ておく。(1)に単一他動詞文の例を、(2)に複他動詞文の例を挙げる。

(1) ʔəwê ʔán mî.

3SG 食べる ご飯

「彼はご飯を食べた。」

(2) ʔəwê phílán jə láiʔəu.

3SG 与える 1SG 本

「彼は私に本をくれた。」

ポー・カレン語は前置詞を持ち、名詞を修飾する状態動詞は名詞の後に置かれる。関係節は名詞の前に置かれる場合と後に置かれる場合とがある。副詞的な要素は主に動詞の後に置かれる。助動詞的な要素は動詞の前に置かれるものと後に置かれるものがある。時制はない。進行相(progressive aspect)を表す文法形式もない。(1)は、「彼はご飯を食べた」という過去の行為以外にも、「彼は(日常的に)ご飯を食べている」といった習慣を表すことができ、また、「彼は(今)ご飯を食べている」「彼は(さきほど)ご飯を食べていた」という現在や過去時点における進行を表すこともできる。ただし、未来事象は動詞の前に非現実法(irrealis modality)を表す助詞 mə を置き、mə ʔán 「(未来において)食べる」のようにして表すのが普通である。否定は、(3)のように、述部末に助詞 ʔé を置くことによって表す。ただし、これは主節の否定の場合であり、従属節の場合には、動詞の前に助詞 la を置き、かつ動詞の直

後あるいは節末に助詞 *bá* を置くことによって否定を表す。ポー・カレン語の音韻や文法の概要については Kato (2019) を、カレン系諸言語全体の文法の特徴については Kato (2021) を参照していただきたい。

- (3) ʔəwé ʔán mǐ ʔé.  
3SG 食べる ご飯 NEG  
「彼はご飯を食べなかった。」

本稿の目的は、本巻所収の「事象キャンセル調査票」を用いてポー・カレン語の事象キャンセルを調査した結果に基づき、この言語の事象キャンセルの様相を示すことである。

## 2. 調査

2018年11月と2019年11月にパアン市において、本巻所収の「事象キャンセル調査票」を用いて調査を行った。調査協力者は Saw Hla Chit 氏(1940年代生まれ、男性)である。

## 3. 調査の結果

以下では調査によって得た例を1つずつ観察する。調査票の各例は前件文と後件文の2つの文からなるので、ポー・カレン語の採取例も2文からなる。ただし、採取例の2文をつなぐ *lānānθí* 「しかし」については注意が必要である。この形式は逆接を表す助詞 *lānān* と「〜も」の意を表す助詞 *θí* の2語からなるが、便宜的に分かち書きをせずに表記する。注意すべきは、この *lānānθí* が(4)のように2つの文をつなぐ接続詞のように機能する一方で、(5)のように節の末尾に現れ、逆接を表す従属節標識としても機能することができるということである。音素表記をした(4)と(5)は表面上、区別をするのが難しい。しかし、(4)の場合、最初の節がなだらかに下降するイントネーションで終わる、*lānānθí* の前にポーズを置くことができる、等の特徴があり、(5)の場合には、最初の節のイントネーションが下降しない、*lānānθí* の前にポーズを置くことができる、等の特徴がある。

- (4) jə ʔán mǐ. lānānθí jə ʔán θəN ʔé.  
1SG 食べる ご飯 しかし 1SG 食べる おかず NEG  
「私はご飯を食べた。しかし、おかずを食べなかった。」

- (5) jə ʔán mǐ lānānθí, jə ʔán θəN ʔé.  
1SG 食べる ご飯 けれども 1SG 食べる おかず NEG  
「私はご飯を食べたけれども、おかずを食べなかった。」

事象キャンセルの調査においては、2文をなるべく独立させたほうがよい。文の境界を越え

でキャンセルができるのであれば、それだけキャンセルが確固とした現象であることが示せるからである。したがって、調査においては、(4)の構造に固定するため、最初の節の後にポーズを置いてキャンセルが可能か否かを確認した。

続く 3.1 以降、調査票に即して採取した例の上には、調査票の調査用文例を「Q1-1. X さんを殺した。しかし、(X さんは)死ななかった。」のように示す。この「1-1」は調査票の項目番号で、本稿ではこれの前に Q を付して見やすくする。ポー・カレン語の各採取例について注意すべき点がある場合には、その下に【注】として付記する。採取したポー・カレン語は、言語的あるいは文化的な観点においてポー・カレン語として自然なものとするため、必ずしも調査用文例をそのまま訳したものにはなっていない。以下 3.1 以降の小節の「対象物の物理的変化が否定され得るか」といった小見出しは、調査票の小見出しに従う。

### 3.1. 対象物の物理的変化が否定され得るか

すべての採取例で対象物の物理的変化をキャンセルすることが可能だった。以下に採取例を示す。

Q1-1. X さんを殺した。しかし、(X さんは)死ななかった。

(6) jə mə θi ʔə. lānānθi θi ʔé.

1SG CAUS 死ぬ 3SG しかし 死ぬ NEG

「私は彼を殺した。しかし、(彼は)死ななかった。」

【注】mə は使役助詞。略号 CAUS は使役助詞を表す。

Q1-2. ココヤシの実を落とした。しかし、落ちなかった。(高い所になっているココヤシの実を長い棒でつついて落とそうとしたが、落ちなかったという状況。)

(7) jə chətòn dà lānthé phlòá. lānānθi lānthé ʔé.

1SG つつく CAUS 落ちる ココヤシの実 しかし 落ちる NEG

「ココヤシの実をつつき落とした。しかし、落ちなかった。」

【注】dà は使役を表す助詞。mə が無意志動詞にのみつくのに対し、dà は意志動詞と無意志動詞の両方につくことができる。dà が無意志動詞についた場合、その動詞の表す事象が使役者のコントロールを離れて生起することを表す。一方、mə は、事象生起に対して使役者のコントロールが及んでいることを表す。

Q1-3. ココヤシの実を割った。しかし、割れなかった。(ヤシの実を鉋で割ろうとしたが、割れなかったという状況。)

- (8) jə mə théphà phlòthá. lānânthí théphà ʔé.  
1SG CAUS 割れる ココヤシの実 しかし 割れる NEG  
「私はココナツを割った。しかし、割れなかった。」

Q1-4. 窓を壊した。しかし、壊れなかった。(ガラス窓を棒で叩いて壊そうとしたが、壊れなかったという状況。)

- (9) jə mə ʔàʔòN pàintərân. lānânthí ʔàʔòN ʔé.  
1SG CAUS 壊れる 窓 しかし 壊れる NEG  
「私は窓を壊した。しかし、壊れなかった。」

Q1-5. 糸を切った。しかし、切れなかった。(糸を刃物(あるいは手、歯など)で切ろうとしたが、切れなかったという状況。)

- (10) jə kàò thé phli. lānânthí thé ʔé.  
1SG 引く 切れる 糸 しかし 切れる NEG  
「私は糸を切った。しかし、切れなかった。」

【注】 kàò は「刃物を引いて～を切る」の意を表す他動詞、 thé は「切れる」を表す自動詞である。

Q1-6. 枝を折った。しかし、折れなかった。

- (11) jə bò khā θéinthàin. lānânthí khā ʔé.  
1SG 力を加える 折れる 枝 しかし 折れる NEG  
「私は枝を折った。しかし、折れなかった。」

【注】 bò は手で対象物に何らかの物理的な力を加えることを表す他動詞、 khā は「折れる」を表す自動詞である。

Q1-7. 窓をあけた。しかし、あかなかった。

- (12) jə pàò thán pàintərân. lānânthí pàò thán θà ʔé.  
1SG あける UP 窓 しかし あける UP MID NEG  
「私は窓をあけた。しかし、あかなかった。」

【注】 thán は上昇を表す動詞助詞。「上がる」を表す同形の動詞に由来する。動詞 pàò 「あける」は常に動詞助詞 thán と共に現れる。θà は中動態標識。ポー・カレン語には「あく」を表す自動詞がなく、他動詞 pàò に θà を後置することによって「あく」を表す自動詞的述語を作る。

Q1-8. 紙を貼った。しかし、くっつかなかった。

- (13) jə khədə càkhô. lānānθí { bəothá / khədə θà } ?é.  
 1SG 貼る 紙 しかし くつつく 貼る MID NEG

「私は紙を貼った。しかし、くつつかなかった。」

【注】「くつつく」に対応する形式としては、ぴったりと貼りついた状態を表す動詞 bəothá「貼りつく」あるいは他動詞 khədə「貼る」に中動態標識 θà を後置して自動詞化した khədə θà「くつつく」のどちらを用いてもよい。

Q1-9. 木を倒した。しかし、倒れなかった。

- (14) jə kháo θéin. lānānθí yàkhī làn ?é.  
 1SG 切る 木 しかし 揺らぐ DOWN NEG

「私は木を切った。しかし、倒れなかった。」

Q1-10. 湯を沸かした。しかし、沸かなかった。

- (15) jə dòn thán thikhlán. lānānθí khō thán ?é  
 1SG 沸かす UP 湯 しかし 熱い UP NEG

「湯を沸かした。しかし、熱くならなかった。」

【注】動詞助詞 thán は、状態を表す動詞に後置されると、状態の開始(その状態への変化)を表す。したがって、khō「熱い」に thán を後置した khō thán は「熱くなる」の意を表す。dòn「沸かす」の後に置かれた thán は温度の上昇を表していると考えられる。

Q1-11. ごさを広げた。しかし、広がらなかった。

- (16) jə dà làn khól. lānānθí lànþjá ?é.  
 1SG 敷く DOWN ごさ しかし 広がる NEG

「私はごさを敷いた。しかし、広がらなかった。」

Q1-12. 木の枝を燃やした。しかし、燃えなかった。(木の枝を焚き木にしようとしたが、湿っていて燃えなかったという状況。)

- (17) jə dwé θéinthain. lānānθí mí ?án ?é.  
 1SG 燃やす 木の枝 しかし 火 食う NEG

「私は木の枝を燃やした。しかし、燃えなかった。」

【注】 mí ?án は「燃える」の意のイディオムである。

Q1-13. 山芋を煮た。しかし、煮えなかった。(芋を煮ようとしたが、火力が弱く、煮えなかったという状況。)

- (18) jə ʔánxwī xúthī. lānānθí mēin ʔé.  
1SG 煮る 山芋 しかし 煮える NEG

「私は山芋を煮た。しかし、煮えなかった。」

【注】 mēin は、煮えて食べ頃になった状態を表す。

Q1-14. 魚を干した。しかし、乾かなかった。(干し魚を作ろうとしたが、乾ききらなかったという状況。)

- (19) jə ʔánló jáphó. lānānθí xāin ʔé.  
1SG 干す 小魚 しかし 乾燥した NEG

「私は小魚を干した。しかし乾かなかった。」

Q1-15. スイカを冷やした。しかし、冷えなかった。

- (20) jə mà khléin táitθá. lānānθí khléin ʔé.  
1SG CAUS 冷たい スイカ しかし 冷たい NEG

「私はスイカを冷やした。しかし、冷えなかった。」

このように、採取例(6)から(20)のすべてにおいて対象物の物理的変化をキャンセルすることが可能である。これらのうち、(6)(8)(9)(20)では使役助詞 mà を用いた使役構文が使われており、(7)では使役助詞 dà を用いた使役構文が使われている。ポー・カレン語の使役構文については Kato (2009) と加藤(2019) を参照されたい。Kato (2009) で述べたとおり、ポー・カレン語には Vendler (1967) の言う達成(accomplishment)を表す典型的な他動詞が少ないため、対象の変化をこうした使役構文を用いて表すことが多い。3.12 でも論じるように、ポー・カレン語の使役構文においては、被使役者の動作のキャンセルが可能である。また、(10)と(11)では対象の変化を表すのに Vtr + Vintr (他動詞+自動詞)という組み合わせを持つ動詞連続が使われている。Kato (2009, 2017, 2019) と加藤(2019) で述べたとおり、ポー・カレン語のこのタイプの動詞連続では、一般的に他動詞の目的語項と自動詞の主語項が同一となり、意味的には、他動詞が表す動作の影響によって自動詞の表す事象が生じることが表される。加藤(2019) で述べたように、この動詞連続も使役構文の一種であると見なすことができる。使役構文の事象キャンセルについては 3.12 で、動詞連続の事象キャンセルについては 3.13 で詳しく述べる。

### 3.2. 対象物の知覚が否定され得るか

まず採取例を示す。

Q2-1. 見た。しかし、見えなかった。

- (21) jə jō. lānānθí dá ?é.  
 1SG 見る しかし 見える NEG

「私は見た。しかし、見えなかった。」

【注】動詞 dá は、視覚の経験者を主語として取り、見えた対象物を目的語として取る無意志他動詞である。

Q2-2. 聞いた。しかし、聞こえなかった。

- (22) jə chōnná. lānānθí γōN ?é.  
 1SG 聞く しかし 聞こえる NEG

「私は聞いた。しかし、聞こえなかった。」

【注】動詞 γōN は、聴覚の経験者を主語として取り、聞こえた音やその発信源を表す名詞を目的語として取る無意志他動詞である。(22)は例えば、ラジオの受信状態が悪く、聞こうとしても聞こえない状態を表す。

Q2-3. 魚醬のにおいをかいだ。しかし、においがしなかった。

- (23) jə nōnmōN jōwá já?úthí. lānānθí nōN ?é.  
 1SG かぐ (～)てみる 魚醬 しかし においを感じる NEG

「私は魚醬のにおいをかいでみた。しかし、においがしなかった。」

採取例(21)と(22)において、対象物の知覚をキャンセルすることが可能である。(23)については注意が必要である。動詞 nōnmōN は、「(においを)かぐ」と「接吻する」と「香る」の意味を表し、「かぐ」の意の場合、通常、動詞小辞 jōwá 「(～)てみる」と共起する。そのため、(23)では nōnmōN を単独で使うことができず、「かぐ」の意を表す nōnmōN そのものの事象キャンセルの可否は検証不可能である。3.11 で見るように、助詞 jōwá には動作の実現を含意(entail)しなくさせる働きがあるからである。

### 3.3. 対象物の移動が否定され得るか

まず採取例を示す。

Q3-1. 小石を投げた。しかし、投げられなかった。(小石を投げようとしたが、手にくっついて、手から離れなかったという状況。)

- (24) jə khwáicò lōUN. lānānθí phlò ?é.  
 1SG 投げる 石 しかし 離れる NEG

「私は石を投げた。しかし、(石は手から)離れなかった。」

Q3-2. スイカを籠に入れた。しかし、入らなかった。(スイカを籠に入れようとしたが、大き

くて入らなかったという状況。籠は袋に替えてもよい。)

- (25) jə chũ làn táiòthá ló dàn phèn. lānānthī thō ?é.  
 ISG 入れる DOWN スイカ LOC 籠 中 しかし 入りきる NEG  
 「私はスイカを籠の中に入れた。しかし、入らなかった。」

Q3-3. 山芋を抜いた。しかし、抜けなかった。

- (26) jə thè xúthī. lānānthī tài thán ?é.  
 ISG 抜く 山芋 しかし 出る UP NEG  
 「私は山芋を抜いた。しかし、出なかった。」

Q3-4. 岩を動かした。しかし、動かなかった。(大きな岩を動かそうとしたが、重すぎて動かなかったという状況。)

- (27) jə chán lōun phádó. lānānthī wà ?é.  
 ISG 押す 石 大きな しかし 動く NEG  
 「私は大きな石を押した。しかし、動かなかった。」

Q3-5. 鳥を放した。しかし、放せなかった。(鳥を放そうとしたが、鳥かごから出て行かなかったという状況。)

- (28) jə kwé phəjā thóphó. lānānthī jù thán ?é.  
 ISG はずす 放す 鳥 しかし 飛ぶ UP NEG  
 「私は鳥を放した。しかし、飛び上がらなかった。」

Q3-6. 臼を載せた。しかし、載らなかった。(臼を棚に載せようとしたが、思ったより重くて載せられなかったという状況。)

- (29) jə chó thán chóunlōun. lānānthī chó nī ?é.  
 ISG 持ち上げる UP 石臼 しかし 持ち上げる 得る NEG  
 「私は石臼を持ち上げた。しかし、持ち上げられなかった。」

例(27)については注意が必要である。この例の採取においては、「動かす」の意を表す動詞 *thào* を前件文に使おうとしたが、全身の力を込めて押す動作はこの動詞を使っては表せない。*thào* は手で持ち上げられるような重さの物を動かすときに使うからである。代わりに動詞 *chán* を使う必要がある。しかし、*chán* は達成動詞ではないので、(27)は事象キャンセルの検証には使えない。(24)から(29)は、この(27)を除くと、前件文の表す対象物の移動をキャンセルすることが可能であると言える。

## 3.4. 対象物との接触が否定され得るか

まず採取例を示す。

Q4-1. X さんを叩いた。しかし、叩けなかった。(叩こうとしたが、手が届かなかったという状況。)

(30) jə dɔ ʔə. lānānθí khləu ʔé.  
1SG 叩く 3SG しかし とどく NEG

「私は彼を叩いた。しかし、(手が)とどかなかった。」

Q4-2. X さんを蹴った。しかし、蹴れなかった。(蹴ろうとしたが、足が届かなかったという状況。)

(31) jə thè ʔə. lānānθí khləu ʔé.  
1SG 蹴る 3SG しかし とどく NEG

「私は彼を蹴った。しかし、(足が)とどかなかった。」

Q4-3. コップをつかんだ。しかし、つかめなかった。(コップに一瞬触れたが、熱くてしっかりと持つことができなかったという状況。)

(32) jə phón nī thikhlán khwé. lānānθí phón bóun ʔé.  
1SG つかむ 得る 湯 椀 しかし つかむ 勇気がある NEG

「私は湯呑みをつかんだ。しかし、つかめなかった。」

【注】phón「つかむ」の後のnī「得る」は動詞連続のV2として現れ、V1の表す動作を行うために努力が必要であることを表す。意味が抽象化しているため、助動詞的要素と考えることも可能かもしれない。

例(30)と(31)は、調査票が意図したとおり、接触がまったく起きなかった状況を表している。また、(32)は、これも調査票が意図したとおり、対象物に一瞬触れたが、しっかりと持つことはできなかったという状況を表している。

## 3.5. 目的地への到達が否定され得るか

下掲(33)から(36)のすべての例において、目的地への到達をキャンセルすることができる。

Q5-1. 東京に行った。しかし、着かなかった。

(33) jə lì tòcò. lānānθí thòn ʔé.  
1SG 行く 東京 しかし 着く NEG

「私は東京に行った。しかし、着かなかった。」

Q5-2. ここに来た。しかし、着かなかった。(昨日もここに来ようとしたのだが、道が分からなくてたどり着かなかったという状況。)

(34) jə yê ló jò. lānānθí thòn ?é.

1SG 来る LOC ここ しかし 着く NEG

「私はここに来た。しかし、着かなかった。」

Q5-3. 家に帰った。しかし、着かなかった。

(35) jə thàin yéin. lānānθí thòn ?é.

1SG 帰る 家 しかし 着く NEG

「私は家に帰った。しかし、着かなかった。」

Q5-4. 二階に上がった。しかし、着かなかった。(家の二階に上がろうとしたが、膝が痛くて階段を上がれなかったという状況。)

(36) jə thán chəphānkhú thòn. lānānθí thòn ?é.

1SG 上がる 上 階 しかし 着く NEG

「私は二階に上がった。しかし、着かなかった。」

### 3.6. 作成物の出現が否定され得るか

下掲(37)から(39)のすべての例において、作成物の出現をキャンセルすることができる。どの例においても、作成物がまったく出現しなかったという読みと、途中までは出来上がったが最終段階には到達しなかったという読みのいずれもが可能である。

Q6-1. 人形を作った。しかし、出来なかった。(人形を作ろうとしたが、技術がなかったので結局は出来上がらなかったという状況。)

(37) jə tàin chayàn. lānānθí ké thán ?é.

1SG 作る 人形 しかし 成る UP NEG

「私は人形を作った。しかし、出来上がらなかった。」

Q6-2. 家を建てた。しかし、出来なかった。(家を作ろうとしたが、途中で風雨で壊れ、出来なかったという状況。)

(38) jə θóuin yéin. lānānθí ké thán ?é.

1SG 帰る 家 しかし 成る UP NEG

「私は家を建てた。しかし、出来上がらなかった。」

Q6-3. 穴を掘った。しかし、穴ができなかった。(穴を掘ろうとしたが、地面が固くて穴が出来なかったという状況。)

(39) jə khóʊN chəphəN. lānānθí kɛ́ thán ʔé.

1SG 掘る 穴 しかし 成る UP NEG

「私は穴を掘った。しかし、出来上がらなかった。」

### 3.7. 対象物の獲得が否定され得るか

採取例(40)と(41)のどちらも、対象物の獲得をキャンセルすることが可能である。

Q7-1. その本を買った。しかし、買えなかった。(本を買おうとして本屋に行ったが、目的の本がなくて、入手することができなかったという状況。)

(40) jə xwè láíʔəʊ nɔ́. lānānθí nī ʔé.

1SG 買う 本 その しかし 得る NEG

「私はその本を買った。しかし、得られなかった。」

Q7-2. 金を盗んだ。しかし、盗めなかった。(金を盗もうとして店に入ったが、警備員に見つかって入手できなかったという状況。)

(41) jə ʔányú pèinchāN. lānānθí nī ʔé.

1SG 盗む 金 しかし 得る NEG

「私は金を盗んだ。しかし、得られなかった。」

### 3.8. 発声が否定され得るか

下掲(42)と(43)はどちらも、「話す」「歌う」という発生を伴う動作を行おうとしたけれども声が出なかったことを表す。

Q8-1. 話した。しかし、声が出なかった。

(42) jə khlàin. lānānθí jə lū̀ tòi thán ʔé.

1SG 話す しかし 1SG 声 出る UP NEG

「私は話した。しかし、私の声は出なかった。」

Q8-2. 歌った。しかし、声が出なかった。

(43) jə mà thàkhó. lānānθí jə lū̀ tòi thán ʔé.

1SG する 歌 しかし 1SG 声 出る UP NEG

「私は歌った。しかし、声が出なかった。」

### 3.9. 飲食物の摂取が否定され得るか

下掲(44)と(45)いずれの例においても、食べ物や飲み物の摂取をキャンセルすることが可能である。

Q9-1. 魚を食べた。しかし、食べられなかった。(魚を一旦は口に入れたが、まずくて飲み込めなかったという状況。)

- (44) jə ʔán já. lānânθí jə ʔánjū lán nī ʔé.  
1SG 食べる 魚 しかし 1SG 飲み込む DOWN 得る NEG  
「私は魚を食べた。しかし、飲み込むことができなかった。」

Q9-2. 酒を飲んだ。しかし、飲めなかった。(酒を一旦は口に入れたが、まずくて飲み込めなかったという状況。)

- (45) jə ʔò θài. lānânθí jə ʔánjū lán nī ʔé.  
1SG 飲む 酒 しかし 1SG 飲み込む DOWN 得る NEG  
「私は酒を飲んだ。しかし、飲み込むことができなかった。」

### 3.10. 自己完結的動作の最終状態が否定され得るか

まず採取例を示す。

Q10-1. 立った。しかし、立てなかった。(椅子から立ち上がろうとして途中まで腰を上げたが、直立の姿勢にはならなかったという状況。)

- (46) jə chítháuw θán. lānânθí chítháuw nī ʔé.  
1SG 立つ UP しかし 立つ 得る NEG  
「私は立った。しかし、立つことができなかった。」

Q10-2. 座った。しかし、座れなかった。(椅子に座ろうとして脚を曲げたが、脚が痛くて、尻を椅子につけた状態にならなかったという状況。)

- (47) jə chíhàn. lānânθí chíhàn nī ʔé.  
1SG 座る しかし 座る 得る NEG  
「私は座った。しかし、座ることができなかった。」

Q10-3. 眠った。しかし、眠れなかった。(眠ろうとして横になったが、眠りに入ることができなかったという状況。)

- (48) jə mí. lānânθí mí nī ʔé.  
1SG 眠る しかし 眠る 得る NEG  
「私は眠った。しかし、眠ることができなかった。」

上掲(46)(47)(48)いずれの例においても、「立つ」「座る」「眠る」という動作が、それらの最終的な局面である「立った状態」「座った状態」「睡眠に入った状態」に到達しなかったこ

とを表すことができる。

### 3.11. 自己完結的動作そのものの開始が否定され得るか

このグループにおいては、調査票のすべての例においてキャンセルが不可能だった。個々のケースについて下に詳細を述べる。

Q11-1の「立った。しかし、立てなかった。(立ち上がろうとして力を入れたが、椅子から尻をまったく離すことができなかったという状況。)」は事象キャンセルを用いて表すことができない。この日本語をポー・カレン語に直訳すれば3.10で見た(46)になるが、(46)はこういった状況を表すことができないのである。このような状況を表すには、一例として試行を表す助詞 *jōwá* 「(～)てみる」「(～すること)を試みる」を用い、次の(49)のように言う必要がある。これは、動作の開始を含意(entail)されなくする働きが助詞 *jōwá* にあるためだと考えられる。

(49) *jə*    *chíthəun*    *jōwá.*            *lānānθí*    *chíthəun*    *nī*    *ʔé.*  
 ISG 立つ            (～)てみる    しかし    立つ            得る    NEG  
 「私は立ってみた。しかし、立つことができなかった。」

Q11-2の「座った。しかし、座れなかった。(座ろうとして力を入れたが、脚が痛くてまったく動作を開始することができなかったという状況。)」も事象キャンセルを用いて表すことができない。調査票の日本語を直訳した3.10の(47)はこういった状況を表すことができないのである。このような状況を表すには、一例として、(49)と同様に試行を表す助詞 *jōwá* を用い、次の(50)のように言う必要がある。

(50) *jə*    *chínàn*    *jōwá.*            *lānānθí*    *chínàn*    *nī*    *ʔé.*  
 ISG 座る            (～)てみる    しかし    座る            得る    NEG  
 「私は座ってみた。しかし、座ることができなかった。」

Q11-3からQ11-6についても、上記Q11-1およびQ11-2と同様である。Q11-3の「歩いた。しかし、歩けなかった。(歩こうとして力を入れたが、脚が痛くて一歩も踏み出すことができなかったという状況。))」、Q11-4の「走った。しかし、走れなかった。(走ろうとして力を入れたが、脚が痛くて一歩も踏み出すことができなかったという状況。))」、Q11-5の「笑った。しかし、笑えなかった。(笑った顔を作ろうとしたが、恐怖感のため、笑った顔を作ることができなかったという状況。))」、Q11-6の「泣いた。しかし、泣けなかった。(演技のため、泣こうとしたが、演技力がないので涙を流すことができなかったという状況。))」は事象キャンセルを用いて表すことができない。次の(51)から(54)の文連続は許容されないのである。

- (51) \*jə cáin. lānânθí cáin θí ʔé.  
1SG 歩く しかし 歩く できる NEG  
「私は歩いた。しかし、歩くことができなかった。」

- (52) \*jə klí. lānânθí klí θí ʔé.  
1SG 走る しかし 走る できる NEG  
「私は走った。しかし、走ることができなかった。」

- (53) \*jə nī. lānânθí nī nī ʔé.  
1SG 笑う しかし 笑う 得る NEG  
「私は笑った。しかし、笑うことができなかった。」

- (54) \*jə yán. lānânθí yán nī ʔé.  
1SG 泣く しかし 泣く 得る NEG  
「私は泣いた。しかし、泣くことができなかった。」

調査票が意図した状況は、やはり試行を表す助詞 jōwá を用いて次の(55)から(58)のように表す。

- (55) jə cáin jōwá. lānânθí cáin θí ʔé.  
1SG 歩く (～)してみる しかし 歩く できる NEG  
「私は歩いてみた。しかし、歩くことができなかった。」

- (56) jə klí jōwá. lānânθí klí θí ʔé.  
1SG 走る (～)してみる しかし 走る できる NEG  
「私は走ってみた。しかし、走ることができなかった。」

- (57) jə nī jōwá. lānânθí nī nī ʔé.  
1SG 笑う (～)してみる しかし 笑う 得る NEG  
「私は笑ってみた。しかし、笑うことができなかった。」

- (58) jə yán jōwá. lānânθí yán nī ʔé.  
1SG 泣く (～)してみる しかし 泣く 得る NEG  
「私は泣いてみた。しかし、泣くことができなかった。」

このことから、ポー・カレン語において、自己完結的動作そのものの開始はキャンセルすることができないとすることができるだろう。

### 3.12. 被使役者の動作や感情の実現が否定され得るか

まず採取例を示す。

Q12-1. X さんを踊らせた。しかし、(X さんは)踊らなかった。

- (59) jə dà thóunlī ?ə. lānānθí ?əwè thóunlī ?é.  
 1SG CAUS 踊る 3SG しかし 3SG 踊る NEG  
 「私は彼を踊らせた。しかし、彼は踊らなかった。」

Q12-2. X さんを行かせた。しかし、(X さんは)行かなかった。

- (60) jə dà lī ?ə. lānānθí ?əwè lī ?é.  
 1SG CAUS 行く 3SG しかし 3SG 行く NEG  
 「私は彼を行かせた。しかし、彼は行かなかった。」

Q12-3. X さんにマンゴーを食べさせた。しかし、(X さんは)食べなかった。

- (61) jə dà ?án ?ə khòthá. lānānθí ?əwè ?án ?é.  
 1SG CAUS 食べる 3SG マンゴー しかし 3SG 食べる NEG  
 「私は彼にマンゴーを食べさせた。しかし、彼は食べなかった。」

Q12-4. X さんにマンゴーを売った。しかし、(X さんは)買わなかった。

- (62) jə ?ánchā ?ə khòthá. lānānθí ?əwè xwè ?é.  
 1SG 売る 3SG マンゴー しかし 3SG 買う NEG  
 「私は彼にマンゴーを売った。しかし、彼は買わなかった。」

Q12-5. X さんにマンゴーを見せた。しかし、(X さんは)見なかった。

- (63) jə dàné ?ə khòthá. lānānθí ?əwè jō ?é.  
 1SG 見せる 3SG マンゴー しかし 3SG 見る NEG  
 「私は彼にマンゴーを見せた。しかし、彼は見なかった。」

Q12-6. X さんにマンゴーを与えた。しかし、(X さんは)受け取らなかった。

- (64) jə phílán ?ə khòthá. lānānθí ?əwè mànī ?é.  
 1SG 与える 3SG マンゴー しかし 3SG 取る NEG  
 「私は彼にマンゴーを与えた。しかし、彼は受け取らなかった。」

Q12-7. X さんに本を貸した。しかし、(X さんは)受け取らなかった。

(65) jə ʔánlōN phílân ʔə láíʔàʊ. lānânθí ʔəwê ʔánlōN ʔé.  
 1SG 貸す BEN 3SG 本 しかし 3SG 借りる NEG

「私は彼に本を貸した。しかし、彼は(本を)借りなかった。」

【注】動詞 ʔánlōN は「借りる」「貸す」の2つの意味を表す。これに受益を表す助詞 phílân 「(～)てやる」を後置すると、「貸す」の意味に限定することができる。この助詞は「与える」を表す動詞に由来する。

Q12-8. X さんに電話した。しかし、(X さんは)電話に出なかった。

(66) jə ché lān phōʊN ló ʔə ʔó. lānânθí ʔəwê phón phōʊN ʔé.  
 1SG つなぐ DOWN 電話 LOC 3SG ところ しかし 3SG 取る 電話 NEG

「私は彼に電話を掛けた。しかし、彼は電話を取らなかった。」

Q12-9. X さんを驚かせた。しかし、(X さんは)驚かなかった。

(67) jə mà èàʊ ʔə. lānânθí ʔəwê èàʊ ʔé.  
 1SG CAUS 驚く 3SG しかし 3SG 驚く NEG

「私は彼を驚かせた。しかし、彼は驚かなかった。」

Q12-10. X さんを怒らせた。しかし、(X さんは)怒らなかった。(X さんを悪者にするため、X さんを怒らせようとしたが、怒らなかったという状況。)

(68) jə mà θàthán ʔə. lānânθí ʔəwê θàthán ʔé.  
 1SG CAUS 怒る 3SG しかし 3SG 怒る NEG

「私は彼を怒らせた。しかし、怒らなかった。」

Q12-11. X さんを説得した。しかし、(X さんは)引き受けなかった。(困難な仕事を X さんに任せようとしたが、引き受けてくれなかったという状況。)

(69) jə ló nāyân ʔə. lānânθí ʔəwê chōnná ʔé.  
 1SG CAUS 聞こえる 3SG しかし 3SG 聞く NEG

「私は彼を説得した。しかし、聞かなかった。」

【注】ló は、動詞 ló 「語る」に由来する使役助詞である。語りかけることによって被使役者に何らかの状態や状態変化を起こすことを表す。「説得する」は動詞 nāyân 「聞こえる」に使役助詞 ló を前置することによって表す。

上掲(59)(60)(61)(67)(68)(69)の前件文はいずれも使役助詞を用いた使役構文である(Kato [2009]; 加藤[2019]参照)。加藤(2019)で述べたとおり、ポー・カレン語の使役構文には、このように使役助詞を用いる TYPE 1 の使役構文と、動詞 ʔánmân 「命じる」等を用いてその後

に補文を置く TYPE 2 の使役構文の 2 種類がある。TYPE 2 は被使役行為を表す動詞が意志動詞である必要がある等の制限があるため、本稿では TYPE 1 の使役構文を検証に用いた。ポー・カレン語の使役構文は、TYPE 1 であれ TYPE 2 であれ、一般的に、被使役者の動作(状態変化や状態を含む)はキャンセルが可能である。TYPE 2 の例として下記(70)を見ておく。これは、ʔánmâN「命じる」を用いた TYPE 2 の使役構文における被使役者の動作をキャンセルした例である。

- (70) jə ʔánmâN [ʔə thóunlī]. lānânθí ʔəwê thóunlī ʔé.  
 1SG 命じる 3SG 踊る しかし 3SG 踊る NEG  
 「私は彼に踊るように命じた。しかし、彼は踊らなかった。」

上に示した採取例の動詞のうち、(62)の ʔánchâ「売る」、(63)の dàné「見せる」、(64)の phílân「与える」、(65)の ʔánlōN「貸す」、(66)の ché「つなぐ」が表す状況においては、いずれも、働きかける相手は何らかの意志的な動作を行って初めて、動作主の目的が達成される。言い換えると、動作主の目的が達成されるためには、「買う」「見る」「受け取る」「借りる」「(電話に)出る」といった相手側の動作が必要になる。このような動作も、(62)(63)(64)(65)(66)から見て取れるように、ポー・カレン語ではキャンセルが可能である。

### 3.13. 動詞連続。「V1 V2 した。しかし、V2 しなかった」が可能か

ポー・カレン語の連結型動詞連続(concatenated type serial verb construction; 加藤[1998, 2019]および Kato [2009, 2017, 2019]参照)は、最初の動詞 V1 と 2 番目の動詞 V2 の 2 つの動詞からなる最少の連続を考えたとき、(a) V<sub>intr</sub> + V<sub>intr</sub>, (b) V<sub>intr</sub> + V<sub>tr</sub>, (c) V<sub>tr</sub> + V<sub>tr</sub>, (d) V<sub>tr</sub> + V<sub>intr</sub> の 4 つの組み合わせが存在する(V<sub>intr</sub> と V<sub>tr</sub> はそれぞれ自動詞と他動詞)。連結型動詞連続は、V1 と V2 の間に名詞句や前置詞句の介在を許さない動詞連続である。上記(a)から(d)のうち(a)(b)(c)の組み合わせにおいては、項の同一性がそれぞれ S=S, S=A, A=A (S は自動詞主語、A は他動詞主語)となる。つまり V1 と V2 の主語項が同一である。この(a)(b)(c)の組み合わせにおいては通常、(71)の例に示すように、V2 が表す事象の生起をキャンセルすることはできない。しかしながら、(72)のように V1 が移動動詞である場合に限り、V2 が表す事象の生起をキャンセルすることができる。移動動詞には少なくとも、lī「行く」、yê「来る」、thàin「帰る」、thán「上がる」、lân「下る」がある。V1 にこれらの動詞が現れた連結型動詞連続では、一般的に(72)のように V2 が表す動作を後続する文で否定することが可能である。

Q13-2. 魚を<煮る>(V1)<食べる>(V2)した。しかし、食べなかった。

- (71) \*jə ʔánp̚hôn ʔán já. lánânθí ʔán ʔé.  
 1SG 煮る 食べる 魚 しかし 食べる NEG  
 「私は魚を煮て食べた。しかし、食べなかった。」

Q13-1. 魚を<行く>(V1)<買う>(V2)した。しかし、買わなかった。

- (72) jə lì xwè já. lánânθí xwè ʔé.  
 1SG 行く 買う 魚 しかし 買う NEG  
 「私は魚を買いに行った。しかし、買わなかった。」

一方、V1 は常に否定することが不可能である。(73)と(74)に見るとおりである。

- (73) \*jə lì xwè já. lánânθí lì ʔé.  
 1SG 行く 買う 魚 しかし 行く NEG  
 「私は魚を買いに行った。しかし、行かなかった。」

- (74) \*jə ʔánp̚hôn ʔán já. lánânθí ʔánp̚hôn ʔé.  
 1SG 煮る 食べる 魚 しかし 煮る NEG  
 「私は魚を煮て食べた。しかし、煮なかった。」

連結型動詞連続の上記4つの組み合わせのうち(d)は、(a)(b)(c)と大きく異なる特徴を持つ。それは項の同一性が O=S となることである(O は他動詞目的語)。例えば、jə dó θi thòmèin (1SG / 叩く / 死ぬ / イノシシ)「私はイノシシを叩き殺した」では、dó「叩く」の目的語項と θi「死ぬ」の主語項が共に thòmèin「イノシシ」である。(d)のタイプの動詞連続では、各動詞の項がこのように O=S という形で共有され、意味的には、V1 が表す動作の影響によって V2 の表す事象が生じることが表される。加藤(2019)ではこの動詞連続も使役構文の一種と見なした。そして、3.12 で見た使役構文の様々な例と同じように、被使役者に生じる事象すなわち V2 が表す事象は、(75)の例に見るように、キャンセルすることができる。

- (75) jə dó θi thòmèin. lánânθí θi ʔé.  
 1SG 叩く 死ぬ イノシシ しかし 死ぬ NEG  
 「私はイノシシを叩き殺した。しかし、死ななかった。」

既に3.1 で見た(10)と(11)の動詞連続は、この(d)のタイプの動詞連続である。

### 3.14. 受身

調査票のこの項目は、受動構文で動詞の結果部分をキャンセルすることができるか否か

を調べるためのものである。しかし、ポー・カレン語に受動態は存在しない。したがって、この項目はポー・カレン語に適用できない。参考までに、この調査項目の日本語をポー・カレン語に訳すとどうなるかを述べておく。

通言語的に受動態に見られる機能的な特徴として、動作主非焦点化(agent defocusing)の機能がある。動作主を目立たなくする機能である。Kato (2020)で詳しく論じたように、ポー・カレン語でこの動作主非焦点化の機能を担うのは、主語位置に名詞 *chə* 「物」を置く非人称構文(impersonal construction)である。これを Kato (2020)では *chə* 構文(*chə*-construction)と呼んだ。例えば、*chə mà θi ?ə* (物 / CAUS / 死ぬ / 3SG)では、*chə* を主語位置に置くことによって、動作主についての情報が重要ではないこと、あるいは動作主が総称的(generic)であることが表される。これを字義通りに日本語に訳せば、「物が彼を殺した」となるが、動作主非焦点化の観点からは、「彼は殺された」と訳することができる。したがって、Q14-1 の調査項目に意味的あるいは語用論的に対応するポー・カレン語として、*chə* 構文を用いた(76)を挙げることができる。

Q14-1. X さんは殺された。しかし、死ななかった。

(76) *chə mà θi ?ə. lānānθi θi ?é.*  
 物 CAUS 死ぬ 3SG しかし 死ぬ NEG  
 「彼は殺された。しかし、死ななかった。」

これは言うまでもなく使役構文である。3.12 で述べたように、ポー・カレン語の使役構文では一般的に被使役行為をキャンセルすることができるから、(76)の文連続は許容される。

#### 4. まとめ

ポー・カレン語の事象キャンセルについて、「対象物の物理的変化が否定され得るか」「対象物の知覚が否定され得るか」「対象物の移動が否定され得るか」「対象物との接触が否定され得るか」「目的地への到達が否定され得るか」「作成物の出現が否定され得るか」「対象物の獲得が否定され得るか」「発声が否定され得るか」「飲食物の摂取が否定され得るか」「自己完結的動作の最終状態が否定され得るか」「自己完結的動作そのものの開始が否定され得るか」「被使役者の動作や感情の実現が否定され得るか」「動詞連続で「V1 V2 した。しかし、V2 しなかった」が可能か」「受身で結果が否定され得るか」という 14 の観点から検討してきた。「受身」はポー・カレン語に存在しないので除外すると、3.11 で論じた「自己完結的動作そのものの開始」と、3.13 で論じた「動詞連続の V2 が表す動作」(V1 に移動動詞を持つ場合を除く)についてはキャンセルができなかったものの、それ以外についてはキャンセルが可能であることが明らかになった。

「自己完結的動作そのものの開始」は、Kato (2014)や加藤(2015)あるいは岡野(本巻所収)の指摘にあるように、ビルマ語ではキャンセル可能なことがある。ポー・カレン語はビルマ語

に隣接する言語で、話者にはビルマ語とのパイリンガルも多いが、この点については差異が見られるようである。ただし、調査協力者を増やせば、自己完結的動作の開始をキャンセル可能と見なす話者が見つかったとしても奇妙ではない。

全体として、ポー・カレン語は事象キャンセルを大幅に許す言語であると結論づけることができる。基本的には、ポー・カレン語の動詞が表す意志的な動作の終端部分は一般的にキャンセルすることができると思われることができる。自己完結的動作の開始部分については、この言語でこれを「意志→動作開始」という流れの中の終端部分と解釈することは不可能なのだろう。

もし動作の終端部分が一般的にキャンセル可能であるならば、逆にそれをキャンセルすることができないように「固定化」できないのかという疑問が持ち上がる。ポー・カレン語にはその方法が存在する。それは、分離型動詞連続(separated type serial verb construction; 加藤[1998]および Kato [2017, 2019]参照)を用いて、V2 の位置に結果を表す動詞を置くことである。分離型動詞連続は、3.13 で述べた連結型動詞連続と異なり、V1 と V2 の間に名詞句や前置詞句の介在を許す。しかし分離型動詞連続の V2 として現れることのできる動詞には無意志動詞でなければならないという制約がある。そして、この V2 として現れた動詞は、「V1 が表す事象の結果」または「V1 が表す事象の生起可能性」を表す。重要なことは、加藤(1998)や Kato (2017, 2019)で既に指摘しているとおり、分離型動詞連続の V2 が表す事象の成立はキャンセルできないという事実である。例えば、分離型動詞連続を用いた *jə dó thwí θi* (1SG/ 叩く / 犬 / 死ぬ)「犬を叩き殺した」は、これ自体は文法的にも意味的にも適格な文である。しかし、後に V2 の事象を否定する文を置くと、その文連続は、(77)のように意味的に矛盾を生じてしまう。

- (77) \**jə dó thwí θi. lānānθi θi ?é.*  
 1SG 叩く 犬 死ぬ しかし 死ぬ NEG  
 「私は犬を叩き殺した。しかし、死ななかつた。」

これは、分離型動詞連続の V2 によって表された結果が、キャンセルできない「固定化」したものである。ポー・カレン語では、この方法を用いて、キャンセル可能な事象をキャンセル不可能にすることができる。(6)の前件文 *jə mà θi ?ə*「私は彼を殺した」を例に取ろう。この文を、次の(78)のように、*mà θi*「殺す」全体を V1 として使い、*θi*「死ぬ」を V2 として用いた分離型動詞連続に変えれば、「死ぬ」という事象の成立が確定する。

- (78) *jə mà θi ?ə θi jəu.*  
 1SG CAUS 死ぬ 3SG 死ぬ PFV  
 「私が彼を殺したところ、(彼は)死んだ。」

なお、*θi* のような状態変化を表す動詞は、単独で述部に現れたときに、直後に何らかの文が続くか、動詞の後に何らかの助詞を置かないと文の落ち着きが悪くなる。そのために(78)では完結相(perfective)を表す *jào* を *θi* の後に置いているが、これそのものはキャンセル不可能への固定化に関与しない。例えば(6)の前件文の末尾に *jào* を加えて *jə mà θi ?ə jào* 「私はもう彼を殺した」と変えても、「死ぬ」という事象は、*jə mà θi ?ə jào. lānānθi θi ?é* 「私はもう彼を殺した。しかし、(彼は)死ななかつた」に見るとおり、依然としてキャンセルすることが可能である。

## 略号

1	一人称	O	他動詞目的語
2	二人称	PFV	完結相(perfective)
3	三人称	S	自動詞主語
A	他動詞主語	SG	単数
BEN	受益	UP	上方向を表す助詞
CAUS	使役助詞	V	動詞
DOWN	下方向を表す助詞	Vintr	自動詞
LOC	場所・起点・着点を表す助詞 <i>lá</i>	Vtr	他動詞
MID	中動態標識	V1	動詞連続の第一動詞
NEG	否定	V2	動詞連続の第二動詞

## 参考文献

- 加藤昌彦(1998)「ポー・カレン語(東部方言)の動詞連続における主動詞について」『言語研究』113: 31–61.
- Kato, Atsuhiko (2009) Valence-changing particles in Pwo Karen. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 32.2: 71–102.
- Kato, Atsuhiko (2014) Event cancellation in Burmese. Paper read at 24th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society, Yangon University.
- 加藤昌彦(2015)「ビルマ語の事象キャンセル」*EX ORIENTE* 22: 1–36.
- Kato, Atsuhiko (2017) Pwo Karen. In: Graham Thurgood and Randy LaPolla (eds.) *The Sino-Tibetan Languages (2nd Edition)*, 942–958. London and New York: Routledge.
- Kato, Atsuhiko (2019) Pwo Karen. In: Alice Vittrant and Justin Watkins (eds.) *The Mainland Southeast Asia Linguistic Area*, 131–175. Berlin: Mouton de Gruyter.  
<https://doi.org/10.1515/9783110401981-004>
- 加藤昌彦(2019)「ポー・カレン語の使役と逆使役」池田巧(編)『シナ=チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相』181–203. 京都: 京都大学人文科学研究所.
- Kato, Atsuhiko (2020) Impersonal construction with the noun ‘thing’ in subject position in Pwo Karen.

In: Norihiko Hayashi (ed.) *Topics in Middle Mekong Linguistics 2 (Journal of Research Institute 61)*, 159–183. Kobe: Kobe City University of Foreign Studies.

Kato, Atsuhiko (2021) Typological profile of Karenic languages. In: Paul Sidwell and Mathias Jenny (eds.) *The Languages and Linguistics of Mainland Southeast Asia*, pp. 337–367. Berlin/Boston: Mouton de Gruyter.

<https://doi.org/10.1515/9783110558142-018>

岡野賢二(本巻所収)「ビルマ語の事象キャンセルについての一考察」

Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in Philosophy*. Ithaca, NY: Cornell University Press.